

「安心・活力・発展プラン2015」中間見直し委員会 第3回発展部会 委員意見要旨

No.	項目	発言要旨
1	地域内 移動手段	<ul style="list-style-type: none"> ・長期総合計画は項目が多いが、項目間連携を考慮すべき ・例えば「地域内における移動手段」では、地域毎の人口減少の状況や、強靱化との関係で災害時の緊急輸送の観点等を踏まえて記載すると、より連携した計画となる ・定住促進でも、地域毎の人口はどこがどう減少しているかなどチェックすべき
2		<ul style="list-style-type: none"> ・地元で地域の移動手段についてアンケート調査したところ、特に必要だったのは高齢女性の買物だった ・地域の特性、利用ニーズとマッチングさせるための調査が必要
3		<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通のないところ、バスや電車に乗れない人も課題 ・大分は低床バスやノンステップバスが非常に少なく、空港バスは全くない ・誰もが使える公共交通の確保ということも必要
4		<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスとの混乗化は非常に面白い取組 ・高齢者と若者が触れ合うことにより、様々な関係性が生まれ、コミュニティの活性化が生まれる可能性もある
5		<ul style="list-style-type: none"> ・MaaSを県としてどう整備・活用していくのか
6		<ul style="list-style-type: none"> ・福岡県でもあいのりやコミュニティバスを推進しているが、あまりうまくいっていない ・公共交通の確保には、まずは公共交通を利用する人の掘り起こしが必要 ・タクシーが宅配をするなどの事例もあり、業種間の連携をどう組み込むかといった検討も必要 ・税金の投入による移動手段の確保にも限界があるため、民間事業者の活用も必要
7		<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通が既に撤退してしまったところは車に頼らざるを得ない ・公共交通を維持することが困難な地域は、高齢者が車でなんとか生活できるような支援も必要 ・例えば、エリア限定免許など、今までにない発想が必要な時代になっているのではないか
8	人材育成 人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・活力の政策名に「人材」という言葉がストレートに出てこないが大丈夫か
9		<ul style="list-style-type: none"> ・人材など、社会を支える背景としての存在に係る表現をもう少し検討して欲しい ・目に見える取組(ハード)に目が行きがちだが、裏にいるソフト(人材等)についてもっと目を向けて欲しい
10		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な人材の活躍には、高齢者や障がい者の活躍も必要 ・在宅就労支援を進めているが、現状、取り組む企業は少なく、仕事の切り出しなど、在宅就労の促進に向けて仕事をつくることを、県でもっと進めて欲しい
11		<ul style="list-style-type: none"> ・寮の整備など、外国人雇用に向けて取り組む企業もあり、県として支援を進めて欲しい
12		<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の起業要件緩和を実現したのは大分県 ・外国人が日本人と全く同じ条件で起業できる特区のようなものをつくり、活発な大分県のイメージを作っていくのはどうか
13		<ul style="list-style-type: none"> ・県内にはすばらしい事業者もいるが、知られていないことが多い ・まずは企業を見学し、そこから関係する多様な業種に興味を広がることで、色々な相乗効果が得られると思う
14		<ul style="list-style-type: none"> ・人が少ないといいながら、募集する業種等とのマッチングがどこで行われているかわかりにくい ・就職できないまま、短期の非正規になることも

No.	項目	発言要旨
15	人材育成 人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・集団内での生活が苦手な子どもが多くなってきている ・こういった人材を生かせるような企業の取り組みも必要 ・就業できなければ、引きこもってしまいがちだが、こういった人材が活躍することも必要
16		<ul style="list-style-type: none"> ・スーパーグローバルスクールやスーパーサイエンススクールの国庫が減少しているとのこと ・継続することにより効果が得られるため、県としても継続した支援をして欲しい
17		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者としては、親・本人が納得して進路を希望することが大事 ・県内大学や企業が選ばれるには、選ばれるための理由、魅力が必要
18		<ul style="list-style-type: none"> ・3年以内の離職率が高いのは、職業・働くことについて考えるタイミングが遅いからではないか ・早い段階で考えるためのプログラムを入れるべき ・企業情報を精査せずに就職してしまうことも要因 ・沖縄県では県内企業の詳細情報を毎年作成しており、大分県としても企業情報を広く周知する取組を進めては

No.	項目	発言要旨
19		<ul style="list-style-type: none"> ・県内進学・就職を条件とした奨学金の拡充をしてはどうか ・UIJターン就職の際、未就学児等がいる場合に県営住宅の優先入居を認める ・その住宅には放課後児童クラブや小児科を併設しておくなど、県外から帰ってくる若い親等に優先的な施策を検討することも一つの手ではないか
20		<ul style="list-style-type: none"> ・最近は無断欠勤する若者も多い ・家族、人を大事にする教育、点数主義でなく、中身を育てる教育をして欲しい
21		<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の人材確保に加え、幼稚園教諭を併記できないか ・平素から事業等において外されることが多い
22		<ul style="list-style-type: none"> ・職員の育児休業を2年間認めているが、その効果として出生数が上がっていると実感しており、育児休業等の制度は重要
23	出産・子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは保育園や幼稚園と行った箱の中で過ごしており、地域であまり見かけないのが現状 ・企業内保育を実現しようとしたが、あまりにハードルが高かったため実現しなかった ・親と一緒にする時間を増やすには、企業の中で子育てする仕組みをもっと緩やかにすべき
24		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てを楽しめるかどうかは重要 ・幼稚園の方が保育園より出生率が高いのは、子育てする時間に余裕があるからではないか
25		<ul style="list-style-type: none"> ・出産の前に妊娠することが必要 ・妊娠するためには、時間(休養)が必要であり、働く女性の妊娠する機会の向上についても計画に記載すべき
26	大学連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に大学が関わる意味は大きい ・大学の新しい研究成果を地域に反映させるため、実践として成功事例を共有し、広く知らしめていくことが重要
27	県際交流	<ul style="list-style-type: none"> ・九州としてのブランド力も大きい ・周辺地域も含めた県全土の浮揚のためには、県際交流を強化することも必要ではないか
28	ブランド力	<ul style="list-style-type: none"> ・「おんせん県」「おんせん」という表現で政策～取組まで横串をさすことも、新たな展開を見る一つの糸口になると思う ・企業や教育に係る取組の中にもそういった趣旨があると良いのでは
29	産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・中小企業がワーク・ライフ・バランスを実現するには、収益率を上げるしかない ・そのためには産業振興が必要であり、儲かる企業になることが必要 ・他県から人を呼び込み、定着させられる産業や仕組みが必要